



提供 泉町自治会



▲増水した釜川(昭和57年)

◀平成6年ごろの泉町



この付近は、江戸時代に池上町から分かれてできたまちで、池上裏町や裏町と呼ばれており、明治時代の初め頃「泉町」となりました。  
多くの皆さんが、泉町は歓楽街というイメージをお持ちではないでしょうか。しかし、140年の歴史を持つ古くからあるまちで、戦災で、現在のJR宇都宮駅に発着する電車が見える程、まちの大部分が焼失しましたが、そこから力強く立ち上がり、多くの住民が暮らして

泉町120周年に当たる平成6年には、通りの舗装を直し、街灯を設置するなど改装し、現在に至っています。以前に比べ住人は少なくなりましたが、現在でも、町内で餅つきを行ったり、宮祭りに参加したりして、住民同士の顔が見える、絆の強い誇れるまちです。

てきました。  
かつては、まちの東側を流れる釜川や町内の井戸水がとともきれいで、町内には豆腐店や料理屋があり、釜川にはウナギ屋のいけすがありました。子どもころ、釜川や町内の正行寺の池で泳いで遊んだことを思い出します。その釜川は、現在では2層化され穏やかになりましたが、かつては台風の際に増水し、被害を受けていました。



いけがみ うらまち  
**池上裏町**  
現在の泉町・本町の一部辺り

古いまちの呼び名と  
こぼれ話を紹介します



泉町

小野崎 要造さん (右)

大野 信一さん (左)

# はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

## ロボットに懸けた青春 女子チームの世界への挑戦

宇都宮工業高等学校 生産システム研究部



3人が作り上げたのは、宇宙空間で物質の輸送を行うロボット。電磁波を当て、水・食料・空気などの識別を無人で行い、仕分けることができる点が特徴で

「宇宙とロボットというテーマが発表されてから、1年間試行錯誤して取り組んできたので、入賞は素直にうれしかったです。周りに男子が多い中で、この女子3人が集まることが奇跡だと思います」と振り返る宇都宮工業高等学校生産システム研究部の3人。  
「ワールドロボットオリンピアード」(WRO) 国内決勝大会のオープンカテゴリーー高校生部門で優秀賞を獲得。さらに昨年11月にロシアのソチで行われた国際大会に日本代表として参加し、見事に第6位と審査員特別賞のダブル入賞を果たしました。

国際大会では、英語でプレゼンテーションを行うため、授業の合間の休み時間にも、発音の指導を受け、想定される質問を事前に考え尽くすなど、努力を重ねた結果の快挙でした。

ロボットに青春を懸け、ソチで大きく成長した3人。その笑顔は輝いていました。



小倉雪音さん、大塚優さん、鈴木友恵さん